新・山と花のたより 234号

２０２０年２月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

冬の吉野山

↑吉野山でのフクジュソウ

奈良県吉野町の吉野山は、言わずと知れた桜の名所。ヤマザクラを主とした３万本と言われるサクラの木々は、下千本、中千本、上千本、奥千本と大別され、開花時期も少しずつずれていくので、長い期間にわたって花を楽しめるし、日本の歴史にしばしば登場した所だけに、由緒ある名所、神社仏閣などと桜や自然が融合した独特の景観をなす所なのだ。

かつては雪の名所

また夏のアジサイ、秋の紅葉もそれぞれに魅力があるし、そして古くには「み吉野の山の白雪つもるらしふるさと寒くなりまさるなり」（百人一首）と詠われた雪の名所でもあったのだ。

今年はその雪の吉野山を見たいと思い、吉野山在住の知人に「雪が降ったら連絡欲しい」と依頼していたが、如何せん暖冬で、なかなか電話が入らない。

「明日から冷え込む」との予報を当てにして、２月７日朝から近鉄電車に乗って吉野山に向かった。列車内も閑散としていたが、降り立った吉野駅前も人はまばら。

道端には大きめのツララが

ケーブルには乗らず、温泉谷と呼ばれる谷間の車道を歩きだす。路傍の崖には大きめのツララが多数ぶら下がっているが、路面にも樹林にも雪は見当たらない。

吉野温泉元湯の裏から、急斜面の細い道をジグザグに登り、吉水神社に着いた。

後醍醐天皇や義経ゆかりの地

この神社は元は吉水院(きっすいいん)という金峯山寺の僧坊だったが、明治初期の廃仏毀釈で現在の名称にされた。役行者創建とされ、後醍醐天皇の居所ともなり、兄頼朝に追われる源義経が隠れ住んだ所でもある。

この境内から如意輪寺や中の千本、上の千本が一望でき、「一目千本」の看板が出ている。桜満開の時にまた訪れるとしよう。

勝手神社---静御前が舞い奉納の地

民家や土産物店の中をさらに上ると勝手神社にぶつかる。この神社は古くから戦勝祈願を行うところで、静御前の霊が菜摘女と共に回向を願って舞いを奉じたという逸話があり、これが能、歌舞伎の演目ともなり、センリョウ科チャラン属の植物・フタリシズカやヒトリシズカの和名の由来ともされている。社殿は数年前の火事で焼失し、本殿再建の募金を訴える看板が寂寥感を強めている。

冬ざれの桜林を歩く

中千本から上千本へ、サクラの林を歩くが、人影もなく、広大な冬ざれの林で目立つのはアオキやナンテンの赤い実、その中で餌をついばむジョウビタキやツグミの動きがわずかな慰め。

しかし、店や人家の玄関先では、ウメ、ロウバイが咲き誇り、アセビの花芽が赤く膨らんでいた。そして、帰り道の斜面でフクジュソウが黄金色の花を広げていた。冬鳥たちのシベリアへの北帰行も間もなく見られることだろう。

人懐こいジョウビタキ(雄)⇒

↑吉野山の桜の木に寄生したヤドリギ

不思議な植物・ヤドリギ

葉を落とし尽くした桜林で異様なまでに目立ったのはヤドリギ(寄生木)だった。

ヤドリギは落葉広葉樹に寄生する変わった植物。吉野山ではサクラに寄生することで有名。寄生しているが、自らも光合成で栄養を作るので「半寄生」の生活をする植物。

落葉樹の上で球形の茂みに

ヤドリギは地上には生えない。他の植物にある「根」が無く、寄生根という特殊な組織で樹木の幹や枝に食い込み、水や栄養を吸い取って樹上で成長する。

成長すると球状の茂みをつくるので、よく目立つ。特に冬にはサクラが落葉するので、緑色の塊としていやでも目に付く。

鳥が運ぶヤドリギの種

ヤドリギは秋に実をならせるが、この実を好んで食べるのが、冬鳥のキレンジャク, ヒレンジジャクで、実の中の種は粘着性の強いゼリー状の物質に包まれており、鳥の排便時にお尻に付着、またはぶら下がり、鳥の移動によって他の木や枝にくっつき、繁殖していく。

サクラを大切にする吉野山では嫌われ者だが、なかなか駆除できないのだろう。

↓ヤドリギの実をついばむヒレンジャク

写真は　故澤木仁さん

今年の健康まつりは　5月31日(日)

会場は例年通り　JR 高田駅東側広場と産業会館

登山＆アウトドアー用品のバザーにご協力ください

今年も国民救援会が上記のバザーを健康まつり会場で開きます。同会は冤罪事件や弾圧事件などの無実の被害者とその家族を支援する団体で、バザーでのカンパと売り上げは、その運動のために使われます。不要になった登山用品など歓迎です。

国民救援会中和支部の会長は土庫病院の稲次直樹医師、事務局長は同病院の藤井信雪放射線技師。私も役員をしています。